

2016年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	建築・デザイン学科						
科目名	鉄筋コンクリート構造及び演習						
科目区分	専門科目	単位数	3	開講時期	2年前期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)/必修科目(建築コース)/選択科目(デザインコース)						
担当者	津田 和明						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋コンクリート構造の概要を学び、鉄筋、コンクリートの役目を理解する。(C1) ・梁、柱、耐震壁、接合部、スラブの許容応力度設計法を学び、各許容応力度の算定ができる。(C1) ・梁、柱、耐震壁、接合部の終局強度設計法の概要を学び、各終局強度の算定ができる。(C1) ・鉄筋とコンクリート間の付着特性を学び、付着に対する設計ができる。(C1) ・基礎の概要を学び、直接基礎、杭基礎の設計ができる。(C1) 						
日程と内容	4月14日：導入講義 4月28日：鉄筋コンクリート構造概論 5月12日：梁の許容応力度設計：対曲げモーメントー1 5月19日：梁の許容応力度設計：対曲げモーメントー2 5月21日：柱の許容応力度設計：対曲げモーメント+軸力 5月26日：柱梁の許容応力度設計：対せん断力 6月2日：柱梁の終局強度設計 6月9日：耐震壁の許容応力度設計 6月16日：耐震壁の終局強度設計 6月23日：柱梁接合部の設計 6月30日：スラブの設計 7月9日：付着・定着に対する設計 7月14日：基礎の設計ー1 7月21日：基礎の設計ー2 7月28日：定期試験 8月2日：まとめ						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計				
	演習	30%		100%			
授業到達目標の達成度	今年度より、この科目の担当となり、授業範囲をこれまでの部分的なものから全般的なものに変更した。全体の1/3くらいの学生は理解できたようである。再履修生はほぼ全滅であり、彼らにはレポートを課し合格させた。計算式の理解まで望まないが、せめて、必要最小限の知識だけは身に付けてほしい。						
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が難しいとの声があった。→もう少し、かみ砕いて説明したい。 ・配布資料の文字が小さいとの指摘があった。→資料サイズをB4からA3に変更するとともに、余白を小さくするなどの工夫をしたい。 						
来年度の計画	基本的に今年度と同様に進めていくが、授業全体のスピードをゆるめたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は81点であった。学生の理解度に比べ高い点であった。やはり、自分の専門に関する授業では、種々のエピソードも話すことができ、多少学生の興味を引くことができたように思われる。						
履修登録者数	97名	定期試験 受験者数	95名	合格者数	50名	合格率	53%